

### 小学校外国語（英語）教育の改善・充実

新学習指導要領で、特に小学校で対応を迫られているのが外国語教育の拡充です。これまでも、5・6年生で週1コマずつの外国語活動の時間があり、英語に慣れ親しむために、「聞くこと」「話すこと」を中心に体験的な活動を行ってきました。

しかし、小学校で音声中心に学んだことが、中学校の段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていない面があることが課題としてあがってきました。それを改善するため、3・4年生で週1コマずつの外国語活動、5・6年生で週2コマずつの外国語科の時間が設けられることになりました。外国語活動と外国語科の違いは次のとおりです。

	外国語活動	外国語科
学 年	3年・4年	5年・6年
時間数	週1コマ 年間35時間以上	週2コマ 年間70時間以上
内 容	「聞くこと」「話すこと」中心	「聞くこと」「話すこと」に加え 文字を「読むこと」「書くこと」
ねらい	外国語に慣れ親しみ 外国語学習への動機を高める	コミュニケーション能力の基礎を養う
評 価	記述による評価	数値による評価

小学校高学年で教科となりますが、単に中学校で学ぶ内容を前倒するというものではありません。発達段階に応じて、身近なことに関する基本的な表現を学び、積極的に英語を読もうとしたり書こうとしたりする、初歩的な運用能力の育成をめざしています。

#### ○本町の対応

学習指導要領の全面実施までの2年間は移行期間ですが、本町では平成30年度から全面実施と同じ時間数で実施します。これにより、3年生以上で週1コマずつ授業時間が増加しています。各学校が時程表を見直し、工夫することによって増時間を生み出しました。いち早く対応することにより、学習内容の隙間をできるだけなくすという意図があります。

平成30年3月議会でも小学校外国語教育に関連する質問をいただきました。その概略は次のとおりです。

**Q：小学校専門のALT（外国語指導助手）を配置することで期待される効果は。**

**A：小学校外国語教育の改善・充実には、教員の不安をいかに解消するかということが大きな課題である。英語を話すALT1名が町内4小学校をまわって指導することで、これまで以上にネイティブスピーカーとの会話を楽しむ機会が増えるとともに、教員がALTとやりとりをしながら授業を進めることで、強力なバックアップがなされるものと期待して予算を組んだ。**

小学校にALTを配置することにより、各中学校のALTは校内の授業に専念することができるようになります。小学校の外国語教育の基盤に立って、中学校では英語で授業を行うことが求められていきますが、そこでもALTの役割は大きくなります。

また、今年度は小学校英語専科教員を1人配置し、町内全ての小学校で5・6年生の外国語科の授業は、中学校で英語を教えていた教員が指導することになりました。小学校教員としても、指導技術を学ぶ良い機会になるものと期待しています。

現在の小学生、中学生は大学入試改革に直面する学年です。ご存知のように英語は民間の資格・検定試験が活用されるとのことです。そして何よりもグローバル社会に生きる者としてのコミュニケーション能力が求められています。新学習指導要領の実施は、子ども達が日常生活でも積極的に英語でのコミュニケーションを行うことを意図しています。私達大人も、英語を学び直し、時には子ども達と英会話を楽しむことも必要だと思います。

**問い合わせ先** 教育委員会事務局 総務学事室 TEL：0859-62-0927